

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 11 月 20 日

【評価実施概要】

事業所番号	3873800373		
法人名	有限会社 清水商事		
事業所名	グループホーム 宇和ひまわり		
所在地	西予市宇和町坂戸336-1	(電話) 0894-62-2106	
管理者	土居ひとみ		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 19 年 10 月 2 日	評価確定日	平成 19 年 11 月 21 日

【情報提供票より】 (平成 19 年 8 月 31 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 20 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 8 人, 非常勤 9 人, 常勤換算 14 人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	150 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 150 円
	または1日当たり	1,000 円	

(3) 利用者の概要 (平成 19 年 8 月 31 日事業所記入)

利用者人数	15 名	男性 3 名	女性 12 名
要介護 1	4 名	要介護 2	7 名
要介護 3	4 名	要介護 4	名
要介護 5	名	要支援 2	名
年齢	平均 86 歳	最低 70 歳	最高 96 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園が広がり、野の草花も多く自然が豊かな場所に建てられた平屋のホームで、開設から4年を経過した。隣の畑で野菜を作って食材として利用し、人参の葉は、飼っているウサギの餌にも利用している。車の往来が少ないため、静かで安全であり、イチジクの木の熟れた実を採って食べるのが、散歩の楽しみにもなっている。利用者はそれぞれ自分の役割を持って、生き生きと活発に活動し、素敵な笑顔を見せている。利用者同士の関係も良く、助け合って共同生活を送っている。職員の利用者への接し方もゆったりとして柔らかく、利用者本位のケアを心がけている。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

前回評価で理念の具体化、居室へ入室する際の声かけ、公的な避難場所の確認と災害時のマニュアル作成等が課題として挙げられたが、全職員で話し合い、前向きに取り組んでいくよう意識統一し、改善に積極的に取り組んでいる。なお、今回の外部評価で改善の確認ができています。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

管理者とユニットリーダーが話し合い、その他の職員に意見を聞きながら自己評価をまとめている。また自己評価の結果から、全ての利用者と職員が笑顔で過ごせるように努めることを今後の取り組みの第一に考えている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

ホームの行事報告や避難訓練、外部評価等について話し合っている。地域の方からは、地域行事についてコスモスを植えた場所等の情報を得て、外出の機会を増やしている。また、近隣のホームの管理者にもメンバーに加わってもらって情報交換し、サービスの質の向上に役立っている。現在は座談会形式での話し合いが中心であるが、今後はより活発な意見交換がされるよう議題を考慮し、運営推進会議をより充実させることを期待する。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

家族の面会時に必ず声をかけ、利用者の暮らしぶり、健康状態、金銭管理等について報告し、その都度要望を聞いている。面会の少ない家族に対しても、毎月近況を手書きした手紙を郵送している。家族からの病院受診についての要望に沿うよう対応している。また、介護計画にも家族の意見を取り入れている。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

運営推進会議で情報を得て、地域行事に参加している。ホームに老人会のボランティアが来訪し、踊りやマジック等を披露してくれたり、保育園児が月1回訪れるなど、交流を楽しんでいる。さらに地域との繋がりを広げ、深めていくため、運営推進会議を上手に活用すること、小中学生との交流、地域包括支援センターとの連携等にも期待する。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

宇和ひまわり

(ユニット名)

A 棟

記入者(管理者)

氏名

川中小由里

評価完了日

平成 19 年 8 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 「笑顔ある生活」という理念を掲げている		
			(外部評価) 前回外部評価で、理念を具体化するという課題があげられ、職員一人ひとりが理念について考え、全員で話し合い、「笑顔ある生活」という新しい理念を作り上げている。	※	理念の「笑顔」の中には、利用者が地域の中で安心して暮らしていくことで得られる笑顔もあることを念頭に置き、地域との繋がりを深めていくことが重要であるということを職員間で意識統一するよう期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 職員全員で方針を話し合い、実践目標を決め取り組んでいる		
			(外部評価) 職員全員で作上げた理念であるため、十分共有されている。理念の実践のために、怒らない、ストレスを持ち込まない、利用者優先という具体的な実践目標を掲げ、取り組んでいる。今後は毎月具体的な目標を立て、理念の実践に向けて取り組む予定である。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) ユニットごとの壁に掲示し、わかりやすいようにしている。見学者には、説明をするようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 見かけると、あいさつや話をしている。子供たちが、遊びにきてくれる。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 盆踊りや運動会など、参加させてもらっている。 (外部評価) 地域行事に参加したり、老人会のボランティアや保育園児が来訪するなど、地域の人々との交流がある。自治会には近隣に住む運営者が入っているが、ホームとしては加入していない。	※	地域とのつきあいも徐々に増えているが、顔見知りになった保育園児との交流が継続されるよう、小学生との交流や中学生の職場体験の受入等、ホームとして地域貢献という面でも積極的に取り組むことを期待する。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域のお年寄りにボランティアに来てもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 話し合い、改善に取り組んでいる。 (外部評価) 管理者とユニットリーダーが職員の意見を聞き、自己評価をまとめている。前回の外部評価での課題について、改善に積極的に取り組み、理念の具体化、業務日誌の工夫、感染症予防等、全ての課題に前向きに取り組んだ様子がうかがえる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 報告・話し合いを行い、改善に努めている。		
			(外部評価) 平成18年9月より、3か月に1回定期的に開催している。行事、外部評価結果、今後の方針等について報告したり、災害時における地域の協力を依頼したりしている。地域の方からは地域行事の予定を知らせてもらう等、情報交換している。しかし、活発な意見交換や地域との繋がりを深めるまでには至っていない。	※	メンバーから建設的な意見が出るよう議題を検討し、その議題にあったメンバーを流動的に変更する等して、地域との繋がりが広がり、深まることを期待する。さらに、地域包括支援センターの職員にも声をかけ、参加を呼びかけてほしい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 現状では取り組めていない。		
			(外部評価) 年2回介護相談員が来訪し、利用者と話し、気づいたことを聞いてサービスの質の向上に活かしているが、積極的には市担当者との連携はまだできていない。	※	ホーム側から分からないことを聞きに行ったり、相談に乗ってもらったりするなど、頻繁に市担当者を訪れ、密接な関係づくりを進める取り組みを期待する。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加し、職員会で報告、話し合いをしている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加し、職員会で報告、話し合いをしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 充分な理解・納得が得られるように努めている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 自由に意見を表現出来るようにし、受け入れ、また、速やかな対応に努めている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時、状態等説明している。変わったことがあると、その都度連絡するようにしている。こづかい等は、毎月コピーをし、送っている。 <hr/> (外部評価) 家族の面会時には必ず声をかけ、利用者の暮らしぶり、健康状態、金銭管理等について報告している。また、毎月手書きで近況報告の手紙を出したり、電話をかけたりにして、面会の少ない家族へも配慮している。年4回発行のホーム便りに利用者の笑顔の写真を撮って掲載し、家族に届けている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 自由に意見を述べてもらえる機会を設け、速やかな対応に努めている。 <hr/> (外部評価) 家族の面会時には要望を聞くようにしている。病院の受診については、要望に沿った対応をしている。なお、重要事項説明書に苦情相談の窓口を事業所内と行政及び第三者機関に分けて明記し、説明している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 現状では取り組めていない。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 柔軟な対応ができるよう勤務調整に努めている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動はない。離職に関してもダメージを防ぐ配慮をしている。 (外部評価) 職員の異動はなく、離職も比較的少ない。離職の際には利用者の動揺を考慮して事前には知らせていないが、幸い、離職後のダメージがある様子は見られない。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月研修を受講し、資格所得を推進している。 (外部評価) 管理者と職員は、毎月交代で2名ずつ南予グループホーム連絡協議会主催の研修に参加している。参加者は研修報告書を作成し、職員会で報告し、研修内容を全職員で共有している。なお、研修は出勤扱いとなっており、職員が参加しやすいよう配慮されている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 推進会議や行事への参加を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。 (外部評価) 運営推進会議に近隣のホームの管理者がお互い出席し合って情報交換し、サービスの質の向上に活かしている。「ホーム便り」を相互評価で知り合ったホーム等に送り、交流を継続させている。また、南予グループホーム連絡協議会主催の研修に参加した折、交流の機会を得ている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員間のコミュニケーションを図るための食事会を開いている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 勤務状況の把握、向上心を持って働ける環境づくりに努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) よく話を聞き、安心できるよう努力している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) よく話を聞き、安心できるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 納得できるよう対応に努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人、家族の方に見学、説明をし、よく話し合うようにしている。 (外部評価) 相談を受けた際には本人と家族に見学してもらい、話をよく聞いている。場合によっては利用者の自宅を訪問している。入居後職員との信頼関係ができるまでの間は、帰宅願望がある利用者には、外を歩きながら思いを聞き、気分転換を図ることもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 喜怒哀楽を共にし、教えてもらったり、手伝いをしてもらいながら支えあう関係作りに努めている。 (外部評価) 料理の味付けを教えてもらうことも多く、食事の準備、片付け、掃除等手伝ってもらい、感謝の言葉を掛けている。目の高さに掲示している理念を見た利用者から、「本当にいい言葉やね」と声を掛けられ、改めて理念に立ち返り、笑顔でがんばろうと思直すという職員の話がうかがった。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 共感し、本人を支える関係作りが出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) これまでの関係の理解に努め、より良い関係になることが出来るような支援に努めている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人や家族の希望に応じて馴染みの関係が保てる支援に努めている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握し、孤立しないような関係作りに努めている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 相談してもらえるように声掛けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の意向に沿った支援が出来るよう努めている。 (外部評価) 利用者は自分の希望を言葉で表現する方が多く、「2日に1回は入浴したい」「買い物に行きたい」「家事がしたい」というような希望に沿うよう支援している。遠慮して希望を述べられない方に対し、できるだけ気持ちを推し量るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族等との話でこれまでの暮らしを把握するようにしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 職員間で毎日報告・相談しながら、総合的な現状把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族の話聞き、意見を取り入れ、話し合いをし介護計画作成している。 (外部評価) 新しく包括的自立支援プログラムを導入し、ケアチェックを細かく取り、本人や家族とも話し合い、意見を取り入れ介護計画を作成している。担当制にしているが、月1回の職員会議で全員が意見を出し合い、意識統一した上で決定している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 状態に応じて見直しをし、計画作成をするようにしている。 (外部評価) 月1回の職員会で介護計画の見直しを全職員で行っている。担当者がケアチェック表や介護記録を基に介護計画の評価をし、他の職員の意見を聞き、見直しに役立てている。状態変化があった場合は、担当者がその都度見直ししている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子を介護記録として記入している。変化時は詳しく記入し、全員把握できるようにし、計画作成見直しに活かせるよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人や家族の希望を聞いて、出来るだけ要望に応じている。 (外部評価) 正月には利用者と餅つきをし、おせち料理やお雑煮で新年を迎えている。また、神社へ初詣にも出かけ、家庭で行っていた年中行事を継続できるよう支援している。町内の病院へ受診介助もしている。地域の俳句会への参加も検討しており、その際も同行する予定である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 必要時、協力してもらっている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要時、連絡をとり、話をしている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 現状では取り組めていない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人及び家族の意向を聞き、納得できる医療機関を受診できるようにしている。 (外部評価) 本人や家族の希望に沿ったかかりつけ医となっており、入居前のかかりつけ医を継続している利用者が多い。通常の受診は職員が同行しているが、必要があれば家族にも同行してもらっている。往診は今のところ基本的にはないが、訪問看護を利用している方もいる。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 理解してもらっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 理解してもらっている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 病院との連絡をとり、話し合いをしながら支援を行ってけるようにしている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 本人や家族と話し合い、医師との連絡をして方針を決めている。 (外部評価) 本人や家族からの要望があれば今後前向きに取り組む気持ちはあるが、かかりつけ医の協力が得られることが第一条件であるため、必要が生じた利用者それぞれに、医師等ともよく話し合っ方針を決めていく予定である。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 本人や家族と話し合い、医師との連絡をして方針を決めている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 情報交換をし連絡を取り合えるようしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 誇りやプライバシーを尊重した対応・記録を心がけている。 (外部評価) 居室への入室は本人の了承を得るための声かけをしてから行っている。トイレ誘導は他の利用者に聞こえないよう配慮している。また、面会の記録が他の人に分からないよう、面会簿ではなく、個別の面会用紙の形態をとっている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) ゆっくり話を聞いたり、意思表示できるような声掛けをしたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 希望を聞いたり、したい事を自由にしてもらうよう努めている。 (外部評価) 腹痛を訴えて食べようとしない利用者に対し、本人の意思を確かめながら、腹部のゆったりした着衣に交換し、背部にクッションを入れ、姿勢を変える工夫をすると、食事を始めた場面が見られた。また、帰宅願望のある利用者と外に出て、気分転換を図ってから戻って来られる場面もあり、それぞれの利用者に応じた支援ができています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 本人の着たい物を選択してもらっている。美容は、近くの美容室に行き、外出も楽しんでいる。希望があれば本人の行きたい美容院へ行ってもらっている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) できる事をしてもらい、一緒に楽しみながら準備、片付けをもらっている。 (外部評価) 野菜を切る、配膳する、食器を洗う、机・食器を拭く等、生き生きと活動する利用者の姿がある。食事の材料も、自分たちが畑で育てた野菜や、魚屋で仕入れた魚等新鮮なものを使用している。月に2回はお楽しみ献立の日を作り、利用者の要望に応じている。ミキサー食の方には、食材別に5種類に分けて盛り付ける配慮も見られた。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 嗜好に応じた支援を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表をつけたり、定期的な声掛けをしたりし、失敗を減らしていくよう努めている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴は、毎日行っている。入りたいと希望時は、入れるよう努めている。 (外部評価) 基本的には2日に1回の入浴であるが、希望者は毎日入浴できる。寒くなると入浴したがらない利用者も出てくるが、無理強いせず、時間を置いてすすめたり、足浴をするなど工夫している。浴槽は大きくゆったりしているため、湯の量を調節し、浴槽の短いほうを向いて浸かる等小柄な方が安全に入浴できるよう配慮している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 自由に過ごせるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 一人ひとり役割をもってもらい、出来ることをしてもらっている。トランプやカルタ等をして楽しんでもらえるよう努めている。 (外部評価) 掃除、料理、洗濯物干し、洗濯物たたみ、鶏やウサギの餌やり等、一人ひとりができることをして活発に活動している。お手玉をしながら利用者同士で話を楽しんだり、居室においてあるキーボードで童謡を弾いて聞かせるなど、それぞれ楽しそうに過ごしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) その人にあわせ、お金を所持し、買い物時支払い等してもらっている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 散歩や買い物など、声かけをし、外出の機会をとるようにしている。 (外部評価) 自然が多いホーム周辺を散歩している。外出の機会を多くするよう工夫しており、生活用品等が切れたら利用者自身が購入することに決めている。そのため、週1回の買い物時に、利用者は必要なものを買いに出かけている。また、理美容室に出かけての散髪、外食、花見等ストレス解消に役立っている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族等の協力を得、外出の機会をつくっている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話したい時にされている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 話やすい場所に誘導し、ゆっくりできるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会など行い、職員全員が理解し取り組んでいる。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 戸の開閉時、音ができるようにし、鍵をかけないよう工夫している。 (外部評価) 日中は、玄関は人の出入りでチャイムが鳴るようにし、他の出入口には風鈴をつけて外出を察知し、付き添うようにしている。夜間は防犯のため施錠している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 本人の状態に応じた巡室・見守りにて安全に配慮している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 必要に応じて職員間で相談しながら、危険を防ぐ取り組みをしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 勉強会をし、知識を学び、一人ひとりの状態を把握し見守り等行っている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 勉強会を行っている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 訓練を行うと共に、地域の協力が得られるよう働きかけを行っている。 (外部評価) 基本的に年1回避難訓練を利用者と共に実施している。消防署との日程が合わず、今年度は遅れているが、夜間を想定して実施する予定である。運営推進会議で災害時に地域の協力が得られるよう働きかけているが、具体的な取り決めが十分されているとはいえない。	※	避難場所を公民館にすることは決められているが、さらに避難活動の協力を具体的に提示し、了承を得ておくことが望ましい。今後は、火災だけでなく、地震を想定した避難訓練への取り組みや備蓄の検討も期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 起こり得るリスクについて、家族に説明し、理解を得たうえで、本人の意思を尊重した暮らしができるような対応を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 体調の変化や異変に注意し、速やかな家族との相談・対応に結び付けている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の処方を知りやすいところにいれ、全員が理解できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 理解し、取り組んでいる。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの声掛け誘導を行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量、水分量をチェックし、状態を把握できるようにし、少ない場合等工夫をしている。 (外部評価) 職員が1週間分のカロリー計算を行い、大体の栄養摂取量を把握している。それを基に1日1,500カロリー程度を目安に献立を立てている。食事は毎食、水分量は必要のある方のみチェックし、不足する場合には飲みやすい種類の飲料に変えて補給できるよう工夫している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症ごとの予防や対応の取り決めはないが、常に手洗いやうがいを行って、予防・対応に努めている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 毎日、ふきん等消毒している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 花を植え、入りやすいようにしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花を置いたり、ソファを置きくつろげるようにしている。 (外部評価) 広い窓があり、共用空間は明るい。季節の草花が玄関や居間に飾られ、季節感を味わうことができる。また、静かな環境で、利用者同士の会話もスムーズに行われる。畳スペースでウサギを飼っており、子どもが遊びにくる理由のひとつになっている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 自分の好きな場所で過ごせるよう、何箇所かに椅子を置いている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) なじみの物を置いてもらうようにしている。 (外部評価) 手芸を好む方は布でつくった花をセンスよく飾っている。若い時の夫婦の写真を飾ったり、趣味のキーボードを置いたり、ぬいぐるみを飾ったり、その人らしい居室になっている。日差しが強いため窓にすだれをかけるなど、過ごしやすくするための配慮が見られる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 脱臭・換気に努め、空調による温度差が大きくなるような温度を設定している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) その時の状態に応じて、自立に向けた安全な環境づくりに努めている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 日頃の介護を通じて「わかる力」を把握し、自立に向けた支援が出来るよう努めている。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 花を植えたり、ベランダには椅子を置き、くつろげるようにしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	これまでの生活、また、本人や家族との話を通じて概ね理解している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	職員を確保し、利用者と一緒にゆったりと過ごし時間を設けている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	声かけを行うが、強要はしない。本人の意思を尊重したケアを心がけている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	やりがいを持って活動されたり、職員の感謝の言葉に居顔で答えられる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	家族の要望などもあり、全員が思いのままに・・・とは言えないが、利用者の要望に応えられるように努めている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	バイタルや病院の受診、日頃の見守りにて不安なく過ごせるよう心がけているが、時々自分の健康面に不安を訴えられる利用者がおられる。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の要望通りの支援ができない場合もある。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (自己評価) ① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家族との連絡・相談に努めているが、面会の少ない家族との相談は充分ではない。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	家族や知人の面会がある。また、ボランティアや地域の人が訪ねて来てくれる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) ③ あまり増えていない 4 全くいない	会議の参加者には理解を得られていると思うが、理解を拡充するための地域への働きかけは行われていない。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	身体にふあんがあったり、処遇の面で不満を持っている職員もいる。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 宇和ひまわり

(ユニット名) B 棟

記入者(管理者)
氏名 土居ひとみ

評価完了日 平成 19 年 8 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 「笑顔ある生活」という理念を掲げている		
			(外部評価) 前回外部評価で、理念を具体化するという課題があげられ、職員一人ひとりが理念について考え、全員で話し合い、「笑顔ある生活」という新しい理念を作り上げている。	※	理念の「笑顔」の中には、利用者が地域の中で安心して暮らしていくことで得られる笑顔もあることを念頭に置き、地域との繋がりを深めていくことが重要であるということを職員間で意識統一するよう期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 職員全員で方針を話し合い、実践目標を決め取り組んでいる		
			(外部評価) 職員全員で作上げた理念であるため、十分共有されている。理念の実践のために、怒らない、ストレスを持ち込まない、利用者優先という具体的な実践目標を掲げ、取り組んでいる。今後は毎月具体的な目標を立て、理念の実践に向けて取り組む予定である。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) ユニットごとの壁に掲示し、わかりやすいようにしている。見学者には、説明をするようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 見かけると、あいさつや話をしている。子供たちが、遊びにきてくれる。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 盆踊りや運動会など、参加させてもらっている。 (外部評価) 地域行事に参加したり、老人会のボランティアや保育園児が来訪するなど、地域の人々との交流がある。自治会には近隣に住む運営者が入っているが、ホームとしては加入していない。	※	地域とのつきあいも徐々に増えているが、顔見知りになった保育園児との交流が継続されるよう、小学生との交流や中学生の職場体験の受入等、ホームとして地域貢献という面でも積極的に取り組むことを期待する。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域のお年寄りにボランティアに来てもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 話し合いで改善に取り組んでいる。 (外部評価) 管理者とユニットリーダーが職員の意見を聞き、自己評価をまとめている。前回の外部評価での課題について、改善に積極的に取り組み、理念の具体化、業務日誌の工夫、感染症予防等、全ての課題に前向きに取り組んだ様子がうかがえる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 報告、話し合いを行い、改善に努めている。 (外部評価) 平成18年9月より、3か月に1回定期的に開催している。行事、外部評価結果、今後の方針等について報告したり、災害時における地域の協力を依頼したりしている。地域の方からは地域行事の予定を知らせてもらう等、情報交換している。しかし、活発な意見交換や地域との繋がりを深めるまでには至っていない。	※	メンバーから建設的な意見が出るよう議題を検討し、その議題にあったメンバーを流動的に変更する等して、地域との繋がりが広がり、深まることを期待する。さらに、地域包括支援センターの職員にも声をかけ、参加を呼びかけてほしい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 現状では、取り組めていない。 (外部評価) 年2回介護相談員が来訪し、利用者と話し、気づいたことを聞いてサービスの質の向上に活かしているが、積極的には市担当者との連携はまだできていない。	※	ホーム側から分からないことを聞きに行ったり、相談に乗ってもらったりするなど、頻繁に市担当者を訪れ、密接な関係づくりを進める取り組みを期待する。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加し、職員会で報告、話し合いをしている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加し、職員会で報告、話し合いをしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な納得が得られるように努めている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 自由に表現できるようにし、受け入れ、また、すみやかに対応している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時、状態等説明している。変わったことがあると、その都度連絡するようにしている。こずかいには、毎月コピーをし、送っている。 <hr/> (外部評価) 家族の面会時には必ず声をかけ、利用者の暮らしぶり、健康状態、金銭管理等について報告している。また、毎月手書きで近況報告の手紙を出したり、電話をかけた後、面会の少ない家族へも配慮している。年4回発行のホーム便りに利用者の笑顔の写真を撮って掲載し、家族に届けている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 自由に表現できるようにし、受け入れ、また、すみやかに対応している。 <hr/> (外部評価) 家族の面会時には要望を聞くようにしている。病院の受診については、要望に沿った対応をしている。なお、重要事項説明書に苦情相談の窓口を事業所内と行政及び第三者機関に分けて明記し、説明している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 現状では、取り組めていない。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 勤務調整をし、柔軟に対応している。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 移動はなく、離職によるダメージを防ぐよう配慮している。 (外部評価) 職員の異動はなく、離職も比較的少ない。離職の際には利用者の動揺を考慮して事前には知らせていないが、幸い、離職後のダメージがある様子は見られない。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月研修を受講し、資格取得を推進している。 (外部評価) 管理者と職員は、毎月交代で2名ずつ南予グループホーム連絡協議会主催の研修に参加している。参加者は研修報告書を作成し、職員会で報告し、研修内容を全職員で共有している。なお、研修は出勤扱いとなっており、職員が参加しやすいよう配慮されている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 推進会議や行事の参加を通じて、サービスの質の向上に努めている。 (外部評価) 運営推進会議に近隣のホームの管理者がお互い出席し合って情報交換し、サービスの質の向上に活かしている。「ホーム便り」を相互評価で知り合ったホーム等に送り、交流を継続させている。また、南予グループホーム連絡協議会主催の研修に参加した折、交流の機会を得ている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員間での交流の為、食事会を開いている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 勤務状況の把握、向上心をもてる環境づくりに努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) よく話を聞き、安心できるよう努力している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) よく話を聞き、安心できるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 納得できるよう対応に努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人、家族の方に見学、説明をし、よく話し合うようにしている。 (外部評価) 相談を受けた際には本人と家族に見学してもらい、話をよく聞いている。場合によっては利用者の自宅を訪問している。入居後職員との信頼関係ができるまでの間は、帰宅願望がある利用者には、外を歩きながら思いを聞き、気分転換を図ることもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 喜怒哀楽を共にし、教えてもらったり、手伝いをしてもらったりし良い関係作りに努めている。 (外部評価) 料理の味付けを教えてもらうことも多く、食事の準備、片付け、掃除等手伝ってもらい、感謝の言葉を掛けている。目の高さに掲示している理念を見た利用者から、「本当にいい言葉やね」と声を掛けられ、改めて理念に立ち返り、笑顔でがんばろうと思直すという職員の話がうかがった。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族との話をよく聞き、協力してもらうようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) よく話を聞き、より良い関係になるよう努めている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人や家族の希望に応じて、なじみの関係が保てるよう支援している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を大切にし、関わりをもてるよう努めている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 相談してもらえるよう声掛けをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の意向に添った生活ができるよう努めている。 (外部評価) 利用者は自分の希望を言葉で表現する方が多く、「2日に1回は入浴したい」「買い物に行きたい」「家事がしたい」というような希望に沿うよう支援している。遠慮して希望を述べられない方に対し、できるだけ気持ちを押し量るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族や本人と話をし、これまでの暮らしなどを把握するようにしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 毎日、報告、相談し把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族の話を聞き、意見を取り入れ、話し合いをし介護計画作成している。 (外部評価) 新しく包括的自立支援プログラムを導入し、ケアチェックを細かく取り、本人や家族とも話し合い、意見を取り入れ介護計画を作成している。担当制にしているが、月1回の職員会議で全員が意見を出し合い、意識統一した上で決定している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 状態に応じて見直しをし、計画作成をするようにしている。 (外部評価) 月1回の職員会で介護計画の見直しを全職員で行っている。担当者がケアチェック表や介護記録を基に介護計画の評価をし、他の職員の意見を聞き、見直しに役立てている。状態変化があった場合は、担当者がその都度見直ししている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子を介護記録として記入している。変化時は詳しく記入し、全員把握できるようにし、計画作成見直しに活かせるよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人や家族の希望を聞き、できるだけ要望に応じるようにしている。 (外部評価) 正月には利用者と餅つきをし、おせち料理やお雑煮で新年を迎えている。また、神社へ初詣にも出かけ、家庭で行っていた年中行事を継続できるよう支援している。町内の病院へ受診介助もしている。地域の俳句会への参加も検討しており、その際も同行する予定である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 必要時、協力してもらっている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要時、連絡をとり、話をしている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 現状では、取り組めていない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人及び家族の意向を聞き、納得できる医療機関を受診できるようにしている。 (外部評価) 本人や家族の希望に沿ったかかりつけ医となっており、入居前のかかりつけ医を継続している利用者が多い。通常の受診は職員が同行しているが、必要があれば家族にも同行してもらっている。往診は今のところ基本的にはないが、訪問看護を利用している方もいる。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 理解してもらっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 理解してもらっている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 病院との連絡をとり、話し合いをしながら支援を行っていきけるようにしている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 本人や家族と話し合い、医師との連絡をして方針を決めている。 (外部評価) 本人や家族からの要望があれば今後前向きに取り組む気持ちはあるが、かかりつけ医の協力が得られることが第一条件であるため、必要が生じた利用者それぞれに、医師等ともよく話し合っ方針を決めていく予定である。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 本人や家族と話し合い、医師との連絡をして方針を決めている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 情報交換をし連絡を取り合えるようしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 誇りやプライバシーに気をつけて対応している。 (外部評価) 居室への入室は本人の了承を得るための声かけをしてから行っている。トイレ誘導は他の利用者に聞こえないよう配慮している。また、面会の記録が他の人に分からないよう、面会簿ではなく、個別の面会用紙の形態をとっている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) ゆっくり話を聞いたり、意思表示できるような声掛けをしたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 希望を聞いたり、したい事を自由にしてもらうよう努めている。 (外部評価) 腹痛を訴えて食べようとしない利用者に対し、本人の意思を確かめながら、腹部のゆったりした着衣に交換し、背部にクッションを入れ、姿勢を変える工夫をすると、食事を始めた場面が見られた。また、帰宅願望のある利用者とは外に出て、気分転換を図ってから戻って来られる場面もあり、それぞれの利用者に応じた支援ができています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 本人の着たい物を選択してもらっている。美容は、近くの美容室に行き、外出も楽しんでいる。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) できる事をしてもらい、一緒に楽しみながら準備、片付けをしてもらっている。 (外部評価) 野菜を切る、配膳する、食器を洗う、机・食器を拭く等、生き生きと活動する利用者の姿がある。食事の材料も、自分たちが畑で育てた野菜や、魚屋で仕入れた魚等新鮮なものを使用している。月に2回はお楽しみ献立の日を作り、利用者の要望に応じている。ミキサ一食の方には、食材別に5種類に分けて盛り付ける配慮も見られた。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 嗜好に応じた支援を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表をつけたり、定期的な声掛けをしたりし、失敗を減らしていくよう努めている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴は、毎日行っている。入りたいと希望時は、入れるよう努めている。 (外部評価) 基本的には2日に1回の入浴であるが、希望者は毎日入浴できる。寒くなると入浴したがる利用者も出てくるが、無理強いせず、時間を置いてすすめたり、足浴をするなど工夫している。浴槽は大きくゆったりしているため、湯の量を調節し、浴槽の短いほうを向いて浸かる等小柄な方が安全に入浴できるよう配慮している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 自由に過ごせるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 一人ひとり役割をもってもらい、出来ることをしてもらっている。トランプやカルタ等をして楽しんでもらえるよう努めている。 (外部評価) 掃除、料理、洗濯物干し、洗濯物たたみ、鶏やウサギの餌やり等、一人ひとりができることをして活発に活動している。お手玉をしながら利用者同士で話を楽しんだり、居室においてあるキーボードで童謡を弾いて聞かせるなど、それぞれ楽しそうに過ごしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) その人にあわせ、お金を所持し、買い物時支払い等してもらっている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 散歩や買い物など、声かけをし、外出の機会をとるようにしている。 (外部評価) 自然が多いホーム周辺を散歩している。外出の機会を多くするよう工夫しており、生活用品等が切れたら利用者自身が購入することに決めている。そのため、週1回の買い物時に、利用者は必要なものを買に出かけている。また、理美容室に出かけての散髪、外食、花見等ストレス解消に役立っている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族等の協力を得、外出の機会をつくっている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話したい時にされている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 話やすい場所に誘導し、ゆっくりできるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会など行い、職員全員が理解し取り組んでいる。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 戸の開閉時、音がでるようにし、鍵をかけないよう工夫している。 (外部評価) 日中は、玄関は人の出入りでチャイムが鳴るようにし、他の出入口には風鈴をつけて外出を察知し、付き添うようにしている。夜間は防犯のため施錠している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 本人に応じた巡室や見守りにて、安全に配慮している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 必要に応じて、職員間で話し合い、危険を防ぐよう取り組んでいる。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 勉強会をし、知識を学び、一人ひとりの状態を見守り等行っている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 勉強会を行っている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 訓練を行うと共に、地域の協力を得られるよう働きかけをおこなっている。 (外部評価) 基本的に年1回避難訓練を利用者と共に実施している。消防署との日程が合わず、今年度は遅れているが、夜間を想定して実施する予定である。運営推進会議で災害時に地域の協力が得られるよう働きかけているが、具体的な取り決めが十分されているとはいえない。	※	避難場所を公民館にすることは決められているが、さらに避難活動の協力を具体的に提示し、了承を得ておくことが望ましい。今後は、火災だけでなく、地震を想定した避難訓練への取り組みや備蓄の検討も期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) リスクについて家族に説明し、理解を得たうえで、本人の意思を尊重した暮らしが出来るような対応を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 体調の変化や異変に注意し、すみやかな家族の相談、対応に結び付けている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の処方を知りやすいところにいれ、全員が理解できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 理解し取り組んでいる。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの声掛け誘導を行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量、水分量をチェックし、状態を把握できるようにし、少ない場合等工夫をしている。 (外部評価) 職員が1週間分のカロリー計算を行い、大体の栄養摂取量を把握している。それを基に1日1,500カロリー程度を目安に献立を立てている。食事量は毎食、水分量は必要のある方のみチェックし、不足する場合には飲みやすい種類の飲料に変えて補給できるよう工夫している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 手洗いやうがいを励行し予防対応に取り組んでいる。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 毎日、ふきん等消毒している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 花を植え、入りやすいようにしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花を置いたり、ソファを置きくつろげるようにしている。 (外部評価) 広い窓があり、共用空間は明るい。季節の草花が玄関や居間に飾られ、季節感を味わうことができる。また、静かな環境で、利用者同士の会話もスムーズに行われる。畳スペースでウサギを飼っており、子どもが遊びにくる理由のひとつになっている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 自分の好きな場所で過ごせるよう、何箇所かに椅子を置いている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) なじみの物を置いてもらうようにしている。 (外部評価) 手芸を好む方は布でつくった花をセンスよく飾っている。若い時の夫婦の写真を飾ったり、趣味のキーボードを置いたり、ぬいぐるみを飾ったり、その人らしい居室になっている。日差しが強いため窓にすだれをかけるなど、過ごしやすくするための配慮が見られる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 脱臭、換気に努め、温度差にも気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) その時の状態に応じて、自立に向けた環境づくりに努めている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 日ごろの介護を通して、わかる力を把握し自立に向けた支援をしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 花を植えたり、ベランダにくつろげるようにしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない	これまでの生活、また、本人や家族との話を通して概ね理解している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	職員を確保し、利用者と一緒にゆったりと過ごし時間を設けている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	声かけを行うが、強要はしない。本人の意思を尊重したケアを心がけている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	やりがいを持って活動されたり、職員の感謝の言葉に笑顔で答えられる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	家族の要望などもあり、ぜんいんが思いのままに・・・とは言えないが、利用者の要望に応えられるよう努めている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	バイタルや病院の受診、日常の見守りにて不安なく過ごせるよう心がけているが、時々自分の健康面に不安を訴えられる利用者がおられる。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	利用者の要望通りの支援ができない場合もある。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	家族との連絡・相談に努めているが、面会の少ない家族との相談は充分ではない。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	家族や知人の面会がある。また、ボランティアや地域の人が訪ねて来てくれる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) ③ あまり増えていない 4 全くいない	会議の参加者には理解を得られていると思うが、理解を拡充するための地域への働きかけは行われていない。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	身体に不安があったり、処遇の面で不満を持っている職員もいる。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)